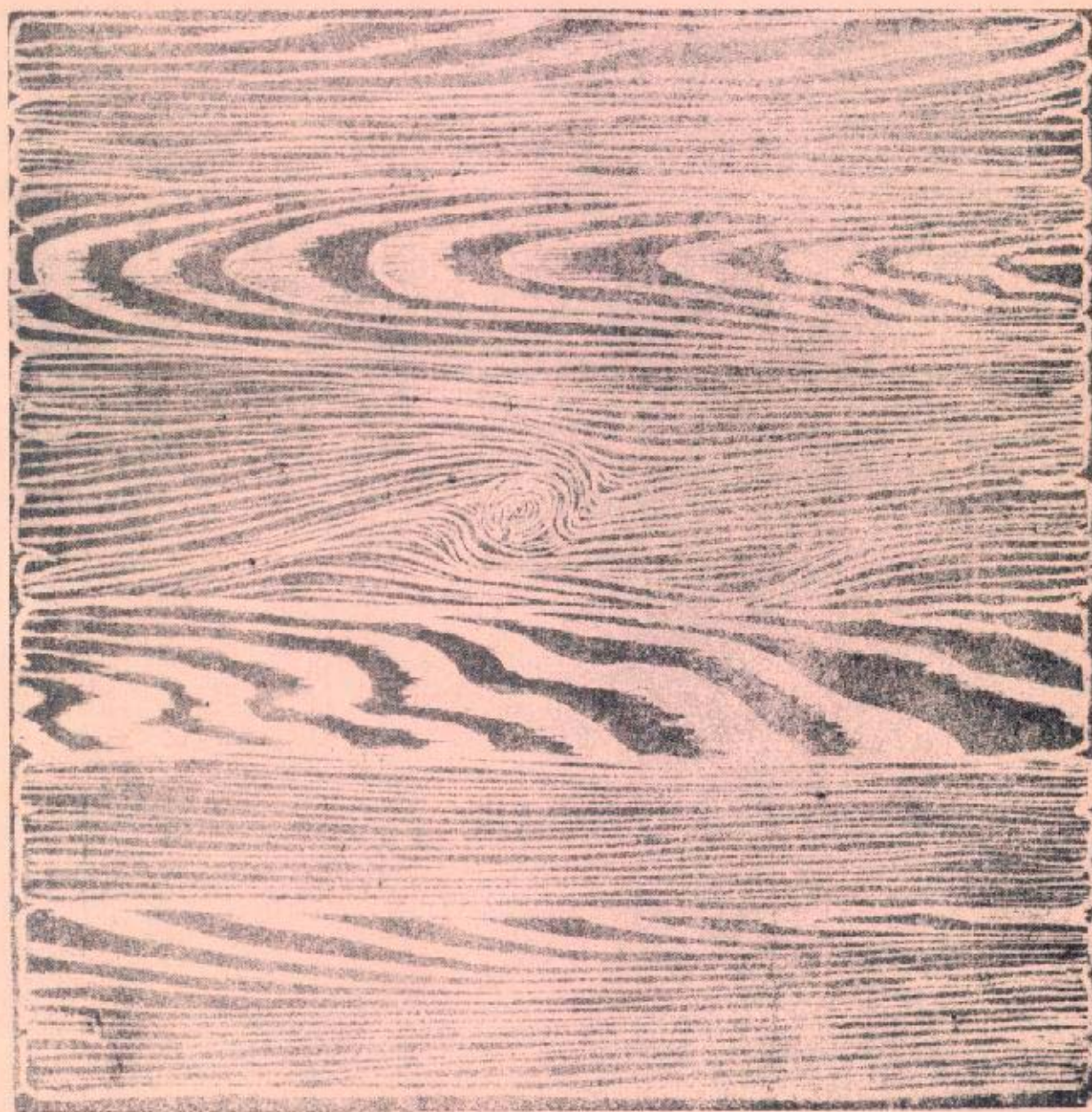


踏査

第8号



1977

関西大学探検部

夜 明 け

山腹の木立ちの中にゐて
誰かが大声で呼んでいる。
若者らしい声だ。
この良い朝ちゅうに
自分だけだといふやうにして。
なんて大きな声だろう
それで私ははっきり目をさました。
そいつが今度は
水のやうな朝に口笛を吹いてゐる。
一人で朝を思ひ切りたのしんでゐる。
まだ日も上らない
うす明りを良いと思ってゐる。
あいつは今じぶん
何処から歩いて来たのだろう。

伊 藤 整



友の像 — 朝倉文夫作 —